

第 19 回 青森県小児糖尿病サマーキャンプにおけるサポート事業

職・氏名： 助教 伊藤耕嗣
 助手 石切麻希子
所属学科： 看護学科

I. 事業の背景

小児糖尿病サマーキャンプは、公益社団法人日本糖尿病協会が 1967 年から全国各地で開催している事業であり、青森県でも同様に、小児糖尿病患者を対象に 3 日間のキャンプを実施している。本事業は、子どもたちが自然の中で集団生活を通じたインスリン自己注射や血糖自己測定、食事のとり方など、糖尿病の自己管理に必要な知識と技術を身につけることを目的としており、同じ病気を持つ仲間との交流を通し、共に励まし合える仲間づくりの場となっている。過年より、本学看護学科の教員と学生が参加し支援を行っている。

II. 目的

青森県在住の小児糖尿病患者に対して、糖尿病教室やレクリエーション活動を実施する。

III. 参加者

1. 大学

看護学科教員 2 名、看護学科 4 年生 3 名

2. キャンプ全体

小児糖尿病患者（小学生～高校生）15 名と家族、医師、看護師、薬剤師、栄養士、医療機器メーカー、ヤングの会（キャンパーOB・OG）、本学教員 2 名、学生ボランティア 3 名など、約 100 名

IV. 事業の内容

1. 小児糖尿病患者のサポート
2. 糖尿病教室、レクリエーション活動の企画運営

V. 事業の効果

1. 期間

2019 年 7 月 26 日（金）～28 日（日）

※本学教員、学生ボランティアは、前期定期試験期間中のため、7 月 27 日（土）～28 日（日）の参加となった。

2. 事業の効果

本事業は、「子どもたちが自然の中で集団生活を通じたインスリン自己注射や血糖自己測定、

食事のとり方など、糖尿病の自己管理に必要な知識と技術を身につける」ことを目的としており、同じ病気を持つ仲間との交流を通し、共に励まし合える仲間づくりの場となっている。

医師、看護師をはじめとしたさまざまなスタッフと本学教員及び学生ボランティアが協働して、糖尿病教室やプール、スイカ割り、キャンプファイヤーなどの企画運営を行ったが、グループごとに行う企画では、高校生がリーダーシップを発揮し、年少児の面倒を見ながら、糖尿病の自己管理に必要な知識と技術を再確認しており、各年代の子どもたちが互いに経験を共有することで仲間意識を強めていた。また、学生は、キャンプ中のさまざまな企画において子どもたちと行動を共にし、糖尿病の自己管理をしながら生活する子どもの看護について理解を深めた他、小学生にとっては遊び相手となり、高校生にとっては進学を検討している子どもの相談相手となるなど、子どもたちの年代に応じた対応により、子どもたちが楽しみながらも安全に過ごすことができるよう支援していた。

以上のことから、本学の教員及び学生が本事業へ参加する意義は、糖尿病教室やレクリエーション活動等の企画運営に携わり、子どもたちがキャンプを通じてさまざまな体験をし、各年代に生じる悩みや不安を共有し、仲間がいることを再認識できる場の提供と、糖尿病の自己管理に必要な知識と技術を楽しみながら学ぶための支援ができることである。

VI. 添付資料

1. 糖尿病教室：グループワークに参加している様子



2. 学習会に参加している様子



3. キャンプファイヤーに参加している様子

